

(陳受23第16号)

境こども園（仮称）建築計画における境幼稚園の園庭規模と幼児教育環境の確保に関する陳情

受理年月日

平成23年6月21日

陳情者

陳情の要旨

平成20年9月、全員協議会で邑上市長から、依然として高い保育ニーズにこたえること、境幼稚園のノウハウを生かすこと、地域に開かれた子育て家庭の支援を行うことの3つの機能を柱に、境幼稚園を多機能施設へ発展的に解消する方向性が示されました。以来、庁内で境幼稚園の発展的解消後の子育て支援施設の検討委員会が設置され、園長先生を初め市職員の方々に検討されてきたと承知しています。

その検討状況については、平成21年3月の予算特別委員会での質疑で、子ども家庭課長から、「境幼稚園でこれまで培われてきた幼児教育の成果を発展的に継承するため、緑豊かな環境を生かした教育、保護者や地域の方が一緒になってつくり上げていく地域の教育力の活用、遊びを通して情操面、身体・言語・コミュニケーション能力を培うなど、人格形成期で最も重要な教育的要素を踏まえて検討中。」との内容の答弁があり、一定の理解をしていたところです。

ところが、その詳細な検討経過を私たちが知る機会もないまま、今年4月に開かれた地元への「境こども園（仮称）建築計画」の説明会では、その運営母体となる予定の公益財団法人子ども協会事務局の本部機能を同園舎内に移転させる方針が一方的に伝えられ、同事務局が多大なスペースを要することもあって、これまでの広々とした園庭が狭小化し、図書室も大幅に削られてしまう基本設計（案）が示されたことから、父母や地域の方々の間で「基本設計（案）のままでは、これまでの幼児教育環境に大きな影響を与えかねない。」との声が高まりました。

そして、平成23年6月、本会議一般質問で、邑上市長から、「基本設計であり、実施設計ではないので、園庭の拡充も検討したい。」という旨の答弁があり、保護者で相談し、このたび、本陳情を市議会に提出させていただくことといたしました。

子どもの体力低下や活字離れ、国語力低下が指摘される昨今、園庭や図書室が果たす教育的意義は極めて大きなものがあります。園庭の土山やタイヤブランコは園児たちの身体能力を高め、心を豊かにしてくれます。大きな二本のケヤキやその下にある広い砂場は、自然の恵みを感じながら園児の想像力をはぐくみ、人とかかわる力を育ててくれた大事な先生であるともいえます。はだしで駆け回れる開放感あふれる園庭は、都市化が進む武蔵野市にとっても重要な財産であり、つぶしてしまったら二度と取り戻すことができない宝物なのではないでしょうか。図書室についても、豊かな情操教育の場として重要な位置を占めているものと理解しています。こども園は子どもの心身の育成のための施設です。大人の事務室よりも子どもの図書室はより重要であるべきです。

以上の趣旨により、下記のことを陳情いたします。

記

- 1 境こども園（仮称）建築計画において、境幼稚園の園庭や砂場及びその近くにそびえるケヤキ、土山やタイヤブランコなど、現園庭の規模や環境を維持するように、建築計画を見直すこと。
- 2 図書室については、現在の機能や規模を維持するように、建築計画を見直すこと。
- 3 公益財団法人子ども協会事務局の本部機能については、境こども園（仮称）に入れることを前提とせず、その設置場所は公共・私有の土地・建物を問わず広く市内施設の中で検討し直すこと。
- 4 境幼稚園保護者や境こども園（仮称）入園希望保護者、園児たちを見守っていただいているという意味でも地域住民の意見を聞く機会を設けること。